

## 流心

次第に遠ざかる雑踏の音声  
言葉を浪費することに倦む

「多彩」はやかましい  
忘却と手を取り合うことはあるけれど

遠ざかるにつれて拡大するもの  
物理的遠近法を逆転させるもの

多様であることがすなわち、  
可能性の広がりを意味するなどという幻想

これら無数の創造物は  
既にこの星の一部として組み込まれたか

我々創造者を驚かせることのないものも  
我々以外の者には驚きを与えるのか

バベルの塔を破壊し、「多様」を発明した  
そんな傲慢不遜な創造主など存在しない

巨大な力をねじ伏せる幻想が支配する  
それが幻想であることを知る時はいつなのか

雑踏の流心に立つ私から離れ  
次第にそれは遠く遙かになってゆく

息苦しさが消えてゆく  
焦燥が消えてゆく

(2004.1.17)